

すぎのこ



尚綱大学附属こども園

今から二十年前、私は熊本市北部の小学校に勤めていました。ちょうど、今頃の梅雨の時期、土曜日（休日）のことです。

その日の朝は、一昨日のような大雨でした。私はやり残した仕事をするために学校に行きました。

学校に着くなり、近所にお住いの方から電話がかかってきました。「小学生がすぐ横の市道で車にはねられ、救急車で病院に運ばれた。」という内容でした。

すぐに、校長先生に連絡をして指示を受け、どの子が事故にあったのか特定するために消防署に連絡をしたり病院に連絡をしたりして、その後児童名が分かった時点で担任の先生にお知らせするなど色々なところに連絡をしました。車に敷かれたのは三年生の男の子ということがわかりました。私が担任をしていた隣のクラスの女子の弟さんでした。しばらくして、その病院に行きました。

福岡に単身赴任中だったお父様も駆け付けて来られました。その三年生は、病院でなくなりました。

その日、その男の子は子ども会の活動があるので集合場所の

学校に向かっていたそうです。

学校に行くには市道を渡るというわけですね。そこには横断歩道と信号機もありました。

その子は青信号を確かめて、きちんと横断歩道をわたっていました。その時に車にはねられたのです。

大雨だったからなのか、よそ見をしていたからなのかわかりませんが、信号無視をして突っ込んできたそうです。男の子は何も悪くありませんでした。

葬儀の日、霊柩車が学校の玄関のロータリーを、クラクションを鳴らししていくなか、全校児童で見送りました。あの時の三年生は、生きていれば、今、二九歳。どんな若者になっていたのかと、この時期になると当時のことを思い出します。

雨の日は渋滞します。急ぎたくなる気持ちもありますが、事故を起こしてからでは取り返しがつきません。

ゆとりをもって、お互い安全運転に心がけましょう。

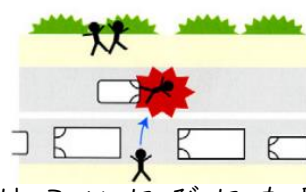
危険を予測する力を

危険予測学習という言葉が聞かれたことはありませんか。この



絵は、文科省から出されている「つぎはどうなる？」という教材の一部です。

この絵を子どもに見せて、この後どんな危険がまっているかを考えさせます。その後、実際に起きた例をもとに、子どもに話をし、飛び出しの危険性というものです。



この学習の特徴は、「飛び出してはいけません。」と教えるのではなく、子ども自ら先を見通す力を身に付けさせるということです。幼児には難しいですが、「ここを飛び出したらどうなるだろうね?」「もし左右を見ないで渡るとどうなると思う?」と考えさせる言葉かけをするだけでも、自ら考えて危険を回避する力がついて来るのではないかと思います。

梅雨の大雨で思 い出すぎること

「安全装置設置五五％」というニュースはご覧になりましたか。先日お知らせしました通り、本園でも先週の土曜日に三台すべてのスクールバスに設置しました。月曜朝、バスに乗った園児は扉に設置された黄色いスイッチにすぐ気づき、「ボタンがついている。このボタンなーに?」と引率保育者に質問をしました。

黄色いスイッチは、通常運行している際、黄色いボタンを押しても作動し

ません。乗車した園児や保育者が誤って押してもその際は鳴らないようになっています。黄色いスイッチだけでなく、降車後乗務員が押す、後方にある赤いスイッチも同様です。ともに、一〇分以上バスが運行し、停車しエンジンが止まってから作動する仕組みになっています。園児自身が助けを求めるこの黄色いスイッチについては、この一週間園児が毎日乗車した際に引率者が繰り返し説明するだけでなく、終業式の中ですべての園児に写真を見せて使い方を知らせる予定です。おうちでも、お子さんと確認していただきますようお願いいたします。

命にかかわることは、いろいろな人から繰り返し伝えることが大事なことだと思います。

以下、今日職員に話をした命に関わる内容をお知らせします。

使用方法の確認風景

